

## 第7節 隠岐医療圏

### (1) 概況

#### ① 人口及び面積

	人口 (人)	面積 (k m <sup>2</sup> )	人口密度 (人/k m <sup>2</sup> )	年齢別人口割合 (%)		
				0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
隠岐	20,291	345.92	58.6	10.9	48.8	40.3

人口：「平成30年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）（総計）」に基づき二次医療圏別に編集したもの

（外来医師偏在指標に係るデータ集（厚生労働省提供）より）

面積：平成27年全国都道府県市区町村別面積調（国土交通省国土地理院）

#### ② 外来医師偏在指標

外来医師多数区域に該当せず

外来医師偏在指標：103.1	
一般診療所従事医師数：10	標準化診療所従事医師数：10
診療所外来患者対応割合：40.0%	順位：131

#### ③ 医療機関の状況

##### ア) 医療施設数

	病院	一般診療所
隠岐圏域	2	20
海士町	0	2
西ノ島町	1	4
知夫村	0	1
隠岐の島町	1	13

県医療政策課（令和元年10月1日時点）

##### イ) 在宅医療に関する施設数

	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	在宅療養支援診療所
隠岐圏域	2	0	3
海士町	0	0	1
西ノ島町	1	0	0
知夫村	0	0	0
隠岐の島町	1	0	2

中国四国厚生局管内の届出受理医療機関名簿（令和元年10月1日現在）より

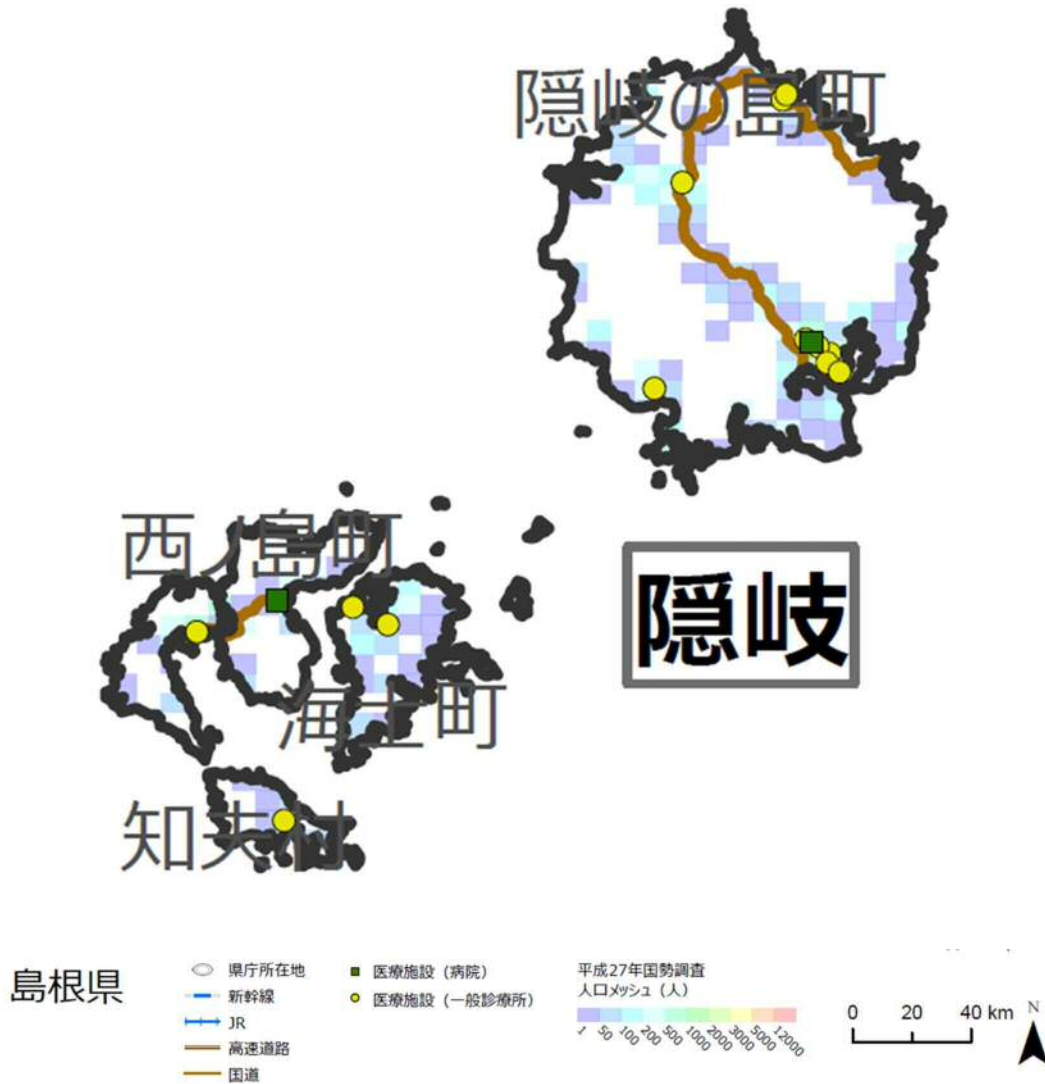
##### ウ) 島根県医療機能情報システム

- ・検索が可能な医療機関（島根県内の病院、診療所、歯科診療所、助産所）
- ・主な機能：地域から検索、診療科目から検索、治療内容や保有する設備、専門外来や予防接種などいろいろな条件で検索

エ) 施設配置状況

— 医療施設所在地マップ（厚生労働省提供）より —

医療機関マッピング（地方厚生局届出情報）



注：地理情報は平成30年4月時点  
この地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平30情使 第524-1号）

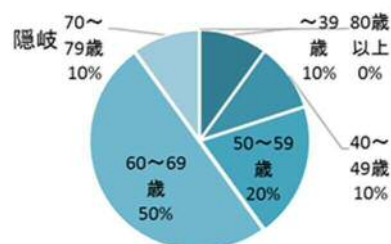
## 医療機器保有状況

機器名	医療機関名（台数）（H29 時点）				
		病院		診療所	
CT	2	隠岐病院（1）	隠岐島前病院（1）	1	海士診療所（1）
MR I	1	隠岐病院（1）		0	なし
PET	0	なし		0	なし
放射線治療	0	なし		0	なし
マンモグラフィ	1	隠岐病院（1）		0	なし

## オ) 島根県在宅医療供給量調査(平成 29 年度)

### 調査結果

在宅医療を実施している診療所医師年齢層



在宅医療の需要と供給



## (2) 現状と課題及び今後の方向性

### ① 全体の方向性

- 隠岐圏域は、医師少数区域に区分されます。
- 平成 31（2019）年 4 月現在、隠岐圏域の民間診療所は、島前 1 か所（歯科 1 か所）、島後 6 か所（内科 3 か所及び歯科 3 か所）と少なく、いずれも医師及び歯科医師の高齢化と後継者の不在という悩みを抱えており、今後現状の診療体制を維持できる見通しは立っていません。
- 民間以外では、隠岐病院、隠岐島前病院を中心に町村立の診療所が連携して外来医療を実施していますが、恒常的な医師不足の中、訪問診療、へき地巡回診療、地域医師支援ブロック制、代診医の派遣、学校医、老人福祉施設嘱託医などへも対応するなど、医師は多忙を極めている状況です。
- 地域医療に興味を持つ医師または医学生が隠岐での勤務を検討する際に、多忙な勤務実態が着任の決断を鈍らせ、さらに現場の疲弊を招くという悪循環を生じています。
- 隠岐圏域については、海によって隔てられた圏域内の有人 4 島が各々で一次医療を担う「非効率性」を強いられていることを理解したうえで対策を進める必要があります。
- 隠岐病院、隠岐島前病院と町村立診療所の連携体制強化にあわせて、民間診療所の存立維持ならびに事業承継が望ましいです。

### ②【初期救急医療の提供体制】

#### ア) 現状と課題（提供体制）

【島後】

○隠岐病院が平日および夜間・休日の対応を行うほか、日曜祝日の昼間については島後医師会所属の民間診療所が輪番制により対応する体制をとっています。ただし民間診療所は医師の高齢化、後継者不足及びスタッフ不足が進んでいます。

#### 【島前】

○民間の診療所は無く、隠岐島前病院、海士診療所、知夫村診療所が平日および夜間・休日の対応を行っています（平日のみ浦郷診療所も対応）。現状の体制を維持するためには、医師確保に係る継続的な努力が必要です。

### イ) 実績

○休日の診療数推移

#### 【島後】

・隠岐病院

H28年度：2,848人

H29年度：2,622人

H30年度：2,521人

#### 【島前】

・隠岐島前病院

H28年度：786人

H29年度：784人

H30年度：760人

・海士診療所

H28年度：443人

H29年度：434人

H30年度：417人

・知夫村診療所

H28年度：47人

H29年度：77人

H30年度：91人

(\*その他、島後は輪番制による民間診療所の対応もあり)

### ウ) 今後の方向性

#### 【島後】

○隠岐病院で対応する患者数が多く、隠岐病院の当直医師に負担が掛かっています。隠岐病院本来の二次救急医療機能を発揮するためにも、今後は町立診療所でも初期救急に対応出来るフォロー体制を検討していきます。

#### 【島前】

○平日および夜間・休日の診療について、隠岐島前病院と浦郷診療所、知夫村診療所は、地域医療支援ブロック制による連携や知夫村診療所への代診医派遣により対応しています。

○海士診療所は、2名のベテラン医師が休日に交替で在島し対応に当たっています。新たな医師招聘については、休日勤務の処遇も含めた検討が必要です。

### ③【在宅医療の提供体制】

#### ア) 現状と課題

#### 【島後】

○隠岐病院は、圏域の中核病院であり島後地区で入院機能を持つ唯一の病院です。

総合病院として16診療科を有しています。外来患者数は、全国の同規模病院の平均外来患者数に対して約2倍です。主に急性期や回復期を担い、訪問診療は、専門的な管理が必要な場合のみ対応しています。

○隠岐の島町内4箇所の町立診療所も人員不足等により訪問診療は一部の患者に対してのみ対応しています。

○平成31(2019)年4月現在、島後地区内の訪問診療を実施している民間診療所は2か所です。今後、医師の高齢化等により民間診療所による訪問診療を続けることも難しくなることが懸念されています。

○圏域内では、施設入所者に対する訪問診療の需要が増加しています。

○数年後には島内における訪問診療需要への対応が困難になることが懸念されています。隠岐広域

連合立隠岐病院と町立診療所（都万・五箇・布施・中村）との連携体制の整理によりマンパワーを生み出すことや、島民のニーズを捉えた新たな高齢者向け住まいの整備によって効率的な在宅医療が実現するよう令和元年度より検討協議がスタートしています。

＊隠岐広域連合立隠岐病院と隠岐の島町立診療所の医療連携体制検討委員会

（委員：島後医師会長、町立診療所長、隠岐広域連合（副連合長、隠岐病院副院長・診療部長・看護部長）、隠岐の島町役場各担当課長（保健・福祉・町民）、隠岐保健所担当課長）

#### 【島前】

○隠岐島前病院は、島前地域で入院機能を持つ唯一の病院です。

○退院前後の調整を随時行い、看護師、療法士、薬剤師、栄養士が定期的に居宅を訪問するなど、在宅医療に積極的に取り組んでいます。

○病院または診療所、町村、保健所の三者が在宅療養患者について定期的に情報交換し、在宅療養に必要な医療福祉サービスの導入について緊密に検討しています。

○隠岐島前病院及び浦郷診療所、知夫村診療所は、医師の勤務相互乗り入れ（地域医療支援ブロック制）を行っており、医師間での情報共有が図られているほか、海士診療所とも検査や入院等の受入を含め、地域内での病診連携は良好に保たれています。

### イ) 今後の方向性

#### 【島後】

○在宅医療（訪問診療、施設入所、外来通院）の島民ニーズを把握したうえで、限られた医療資源を有効活用する観点で病診連携の整理による居宅・施設への訪問診療、及び訪問看護体制の強化が必要です。（現状記載のとおり令和元年度に検討スタート）

○隠岐病院による在宅医療への後方支援、急変時の入院受け入れ機能を確保します。

#### 【島前】

○隠岐島前病院ほか島前地区内の診療所が往診・訪問診療を実施し、在宅復帰支援や急変時の入院受け入れを担っている現状の維持を目指します。医療機能を維持確保するため、医師・看護師をはじめとする医療従事者の確保に圏域の関係機関が協力して当たります。

### ④【産業医、学校医、予防接種等の公衆衛生に係る医療提供体制】

#### ア) 現状と課題

○隠岐管内の指定状況は下記のとおりです。

現状、開業医が少ないため、同じ医師が複数の学校医として委嘱されている状況があります。

○産業医資格を更新するためには、更新研修へ出席し必須単位を取得する必要がありますが、業務多忙の中、研修参加のために何日も診療を休むことや参加にかかる費用負担の課題等があり、医師は苦慮しています。

#### 【島後】

・学校数：14校（小学校⑦、中学校④、高校②、養護①）

学校医：6人

・産業医：3人

#### 【島前】

・学校数：7校（小学校③、中学校②、小中学校①、高校①）

学校医：4人

・産業医：1人

### (3) 医療機器の効率的な活用に係る計画

機器名	共同利用の方針
CT	<p><b>【隠岐病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造影CTについては検査リスクが高いため、紹介患者として（隠岐病院の患者として）対応</li> <li>・それ以外のCTは医療機器共同利用契約で対応</li> </ul> <p><b>【隠岐島前病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内にある2診療所（浦郷診療所、知夫診療所）とは共同利用しており、電子カルテによりCTデータ共有可能な仕組みとなっている。</li> <li>・なお、海士診療所は独自にCTを保有している。</li> </ul>
MR I	<p><b>【隠岐病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査リスクが高いため、紹介患者（隠岐病院の患者）として対応</li> </ul>
PET	機器なし
放射線治療	機器なし
マンモグラフィ	<p><b>【隠岐病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隠岐病院以外は圏域内に産婦人科や外科がないため共同利用なし</li> <li>・疑い患者は紹介患者（隠岐病院の患者）として対応</li> </ul>